

投票環境の向上方策等に関する研究会（第3回）議事要旨

1 日時

平成30年2月26日（月）10:00～12:00

2 場所

総務省7階 省議室

3 出席者

（委員）磯部座長、秋野委員、伊藤委員、小尾委員、河村委員、
小島委員、品田委員、清水委員、林委員、廣井委員、
山崎委員、湯淺委員

（総務省）小倉大臣政務官、小林大臣政務官
森選挙課長、照井管理課長

4 議事要旨

（1）説明等

- ・株式会社情報通信総合研究所からインターネット投票を導入する場合に検討すべき項目やその論点について説明。
- ・株式会社三菱総合研究所及び株式会社VOTE FORからインターネット投票に係る諸外国の状況やアイドル総選挙の取組について説明。

（2）意見交換

上記説明の後、委員間で自由に意見交換を行った。主な発言内容は以下のとおり。

【インターネット投票関係】

- ・本人認証においては、マイナンバーカードの公的個人認証を使うのが現実的ではないか
- ・選挙人名簿の管理について、集中型と分散型の2つが考え方として示されているが、限られた者が対象なら集中型が、幅広い者が対象となるなら分散型が考えられるものの、分散型の場合、レスポンスが追いつくかという課題はあると思う。
- ・電子化にあたって、紙ベースと同等水準の厳格さを求めることも一つの考え方。他方で、日本の場合、電子投票に対して、現在よりも高い

レベルの厳密さを要求するという世論になる気もする。

- ・インターネット投票について、投票に係る基本原則などを維持したまま利便性を高めようとする、様々な課題があると感じた。選挙人名簿の一元管理が求められるとすれば、市町村単位で作っている現行と発想が異なってくると思われる。これまで選管は金銭的にも人員的にも様々な努力をしてきており、事務を単純に増やすのはなかなか厳しいのではないか。
- ・インターネット投票にあたっては、名簿の一元化が必要になるのではないか。自治体ごとにシステムを作るよりは、中央で管理し、自治体に負担をかけないような形がありうるとは思うが、十分に課題を議論・検証していくことが必要。
- ・日本の場合、システム処理で結果が集計されるというブラックボックスのようなものを無条件で受け入れがたいように思うので、投票内容を何か紙のようなもので残しておくことが必要になるのではないか。他方、アクセスログを検証して不正や障害が発生していないことを確認する手段もありえる。
- ・エストニアの再投票方式に関し、確定票がよく分からないという議論もありえるので日本では慎重に考えたほうがよい。
- ・一般的には、電子投票に対する不安があるのは否めないのではないか。他方、アイドル総選挙や株主総会の電子投票化など、様々な分野で電子的手段を用いた投票は行われており、サイバー攻撃への対処に関する知見の蓄積もあり、電子投票導入初期の当時とは状況が変わっている部分もあるのではないか。
- ・電子投票の導入について調査したところによると、若者世代では過半数、高齢者世代でも4割くらいは是認している傾向がある。電子投票に関してネガティブな方は、やはり自分が使えない、全て電子投票に置き換わってしまうと、投票機会が奪われるということで非常に強く反対するという傾向があるように思われる。
- ・投票者が確かに本人かどうかという点と、投票した内容が改ざんされていないことの2つの要素が必要。前者のための確認手続き等については、国によって様々あると思うが、後者については、技術的に絶対に守られなければならない。

【不在者投票の更なる利便性の向上関係】

- ・現行、船員については、選挙人名簿登録証明書を交付し、投票する場合にそれを提示してもらい、選挙や投票用紙の交付状況等をそれに書き込

む方法にし、二重投票の防止を図っている。この仕組み自体は、応用可能ではないか。

- ・ マイナンバーカードを提示して投票することで、名簿の消し込み等が行われるといった仕組みが選挙人にとっては一番利便性が高いのではないか。この場合も選挙人名簿を他団体からどう参照するかが論点になるが、選挙人名簿を分散管理のままにするのであれば、共通プラットフォームを作成し、各自治体が名簿をプラットフォーム上で参照するという方法が考えられるのではないか。
- ・ 他方で、選挙人名簿の登録には、定時登録や選挙時登録があり、また、補正登録や移替えなど、さまざまな登録のタイミングや修正要因がある。また、在外選挙人名簿については随時登録なので、市町村によって登録のタイミングが違う。名簿の一元管理を議論する場合には、こうした公職選挙法における制度を踏まえた上で、議論すべきではないか。
- ・ 共通プラットフォームの作成や名簿の統一化には、かなりのコストがかかるのではないか。過渡的なものにコストをかけるよりは、インターネット投票の議論をしたほうがよいのではないか。